

セクシュア

セクシュアル・マイノリ
決して少ない数字ではない
ためです。本来の「自分」
今号の特集では、まず知

相談の現場から

セクシュアル・マイノリティについて話す場が持てるのが嬉しいです。私がコーディネーターを務める「よりそいホットライン」には、性別違和や性的指向に関わる相談が予想以上に多く寄せられています。年平均50万件のアクセスがあり、今後も増えると予想しています。

また、LGBTが集える場づくりも活動のひとつです。自分について本音で語るには、安心できる安全な空間が不可欠です。セクシュアル・マイノリティの人々には、一般社会の常識から出た助言は役に立たない、逆にプレッシャーを与えてしまうことがあります。意見ではなく「自分の気持ち」を伝えること、発言機会を均等に持つこと、ここで話したことはここに置いていくことなど、聴く側にも配慮が必要です。

講演会レポート

人権週間記念事業より

二人の講師をお招きしました

原ミナ汰さん

幼い頃から性別の境目で生きてきた。現在はXジェンダーを名のり、「LGBTが想定内」の社会に近づくよう地域の支援対策や国の制度・法律に性的指向や性自認の視点を取り入れる活動をしている。よりそいホットラインの専門回線#4総括コーディネーター、LGBT法連合会共同代表を務める。その他、自治体の性的マイノリティ研修や相談支援に関わる。



タイガさん

幼少期より性別違和を抱え、Xジェンダーの感覚を持つ。現在臨床心理士として性的マイノリティの支援、DV/性暴力、スクールカウンセリングの仕事をしながXジェンダー平等社会の実現を目指し活動中。



男か女か、だけ？

男女はもちろん、何事も二つに分ける二項対立的な考え方はよくあります。例えば人種（白人対黒人）や国籍（日本人対外国人）。本来、上下関係や優劣はないはずですが、単純に二分することが、差別に繋がってしまうことは、過去の歴史をみても多々ありました。

自然界でも境界線を引くのはそう簡単ではありません。例えば昼と夜。昼は明るく、夜は暗い。では白夜って昼？夜？それぞれどちらの要素も含んでいて、視点を変えたり、社会のきまり次第で見方はいろいろに変わります。コウモリ、カモノハシ、ハエトリ草…簡単に分類できない動植物はたくさんいますよね！
人間は、工業製品とは違うので、整然と男女二つに分けることは、けっこう難しいのです。

それぞれのものさし

「よくわからない！」から始めてみましょう。まずは「違いがある」ことを認識しましょう。人間の価値を測るものさしは一本ではありません。私にも一本、あなたにも一本、それぞれに持っているのです。私には私の、あなたにはあなたの価値を認め合うことが対

話の出発点です。自分と違う事柄を受けとめる心「受容のものさし」が必要です。なぜ？どうして？だけではなく、そういうものかなと少しだけ受け入れる気持ちを持つことも大事です。それがないと偏見につながりやすくなります。

言い出せない

公共トイレの表示には男女しかない場合がほとんどです。既存の男女の枠組みに入りづらい人がいることを想定していません。でも、トイレに入るだけで肩身の狭い思いをしたり、我慢して入らない選択をしなければなりません。

トイレに行きたくなったとき、なんの表示もないドアを開けますか？これは「言い出せない」カミングアウトできない状態をよく表していると思います。社会全

体がLGBTに対する基礎的な知識を身につけていけば、ドアに表示があるのと同じ役割を果たします。LGBTの存在が想定内である社会、自分たちのことを一から説明しなくても受け入れてもらえる社会になるといいですね。

【タイガさんより】

幼少期より性別に違和感を抱いてきました。小さなまちの中ということもあり、自分が自分であることを肯定できずに苦しみながら過ごしていました。

大学進学の際、自分の居場所が見つかるかもしれないという思いで、東京行きを決意しました。そこでセクシュアル・マイノリティのサークルに入り、やっと自分の居場所を見つけたと実感できました。自分のつらい経験から安心できる居場所づくりをしたいと、現在のスクールカウンセラーの道に進みました。

今回セクシュアル・マイノリティについて考える機会が持てたことは、貴重な経験となりました。自分自身や日々の人間関係を振り返ることができ、対話することの大切さを学んだからです。

せっかく生まれ持った個性、本来の自分を大事にしたいし、大事にされる世の中であってほしいと思います。(成田)

